

(別紙8)

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 6月 29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0170201636		
法人名	社会福祉法人 エムアール会		
事業所名	グループホーム グリーンピア		
所在地	札幌市北区篠路1条9丁目1-41 (電話) 011-773-1311		
評価機関名	株式会社 社会教育総合研究所		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年6月26日	評価確定日	平成21年7月7日

【情報提供票より】 (平成21年6月5日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和 平成 15年12月8日
ユニット数	3 ユニット 利用定員数計 27 人
職員数	26 人 常勤 23人, 非常勤 3人, 常勤換算 23.1 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3 階建ての 1~3 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000~74,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費20,000円 暖房費(11~3月)5,000円 電気代(電気製品1台)500円
敷金	有( 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,083 円		

## (4) 利用者の概要(6月5日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名
要介護3	8 名	要介護4	7 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.9 歳	最低 73 歳	最高 100 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	宮岸医院 コア歯科クリニック
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

札幌市郊外の緑豊かな住宅地に位置する3ユニットのグループホームである。建物は鉄筋コンクリート3階建てで廊下、食堂、キッチン、トイレ、居間など共用空間や各個室とも広いスペースを確保している。ホーム内の段差はほとんどなくクッションフロアやエレベータ設置、手すりや洗面所の改善など設備面も整っている。センター方式のアセスメントに取り組むなど管理者、スタッフとも意欲的にサービス向上に取り組んでおり、運営企業の協力・支援体制も充実している。利用者個人の希望やペースを尊重した介護が実践され、利用者、スタッフとも笑顔で明るく過ごしている。家族との情報交換に独自の「連絡帳」を用い、細かな情報伝達、意見収集に配慮している。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつきあい、運営推進会議の開催は継続的な改善課題となっているが、家族への報告、職員の意見を集約した介護計画づくり、日々のその人らしい暮らしの実現等の項目は改善が実現されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、まずは全職員がそれぞれ作成して会議で意見を集約し、ユニットごとで取りまとめる理想的な方法をとっている。過去の自己評価、外部評価の項目に基づき、サービス改善に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は地域包括センターや住民代表などが参加し、ホーム行事を組み合わせたり、自己評価・外部評価などテーマを設定して意見交換や情報交換が行われている。しかし前年度は年間3回程度で回数的に十分ではなかったため、今後2ヶ月に1回程度のペースで継続して開催できるよう計画的な取り組みを期待する。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や運営推進会議で家族の意見を聞いている。ホーム独自の「ご家族様連絡帳」を活用し常に意見を聞いている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関について明示している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや保育園の運動会に参加している。地域のボランティアの方にクリスマス会に来ていただくこともある。しかし地域住民との日々の交流は以前ほど活発ではなくなってきたので、地域の行事等の情報を積極的に収集し、さらに参加機会を増やしたり、運営推進会議を通じて地域の方が気軽に訪問してもらえるような関係作りを期待する。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの運営理念の4項目の一つに「地域の中でお互いに協力し、支えあう暮らし」を掲げ地域密着型を意識した理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関ホールや各ユニットの見やすい部分に掲示されている。職員は理念を常に心がけて業務に当たっており、ネームプレートの裏に理念を記入している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや保育園の運動会に参加している。地域のボランティアの方にクリスマス会に来ていただくこともある。しかし地域住民との日々の交流は以前ほど活発ではなくなってきている。	○	地域の行事等の情報を積極的に収集し、さらに参加機会を増やしたり、運営推進会議を通じて地域の方が気軽に訪問してもらえるような関係作りを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、まずは全職員がそれぞれ作成して会議で意見を集約し、ユニットごとで取りまとめる理想的な方法をとっている。過去の自己評価、外部評価の項目に基づき、サービス改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域包括センターや住民代表などが参加し、ホーム行事を組み合わせた、自己評価・外部評価などテーマを設定して意見交換や情報交換が行われている。しかし前年度は年間3回程度で回数的に十分ではなかった。	○	2ヶ月に1回程度のペースで継続して開催できるよう計画的な取り組みを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括センターが運営推進会議に参加するほか、施設長が市や区に出向いて良好な関係を作っている。区の管理者会議でも情報交換を行っている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族との情報交換にホーム独自の「ご家族様連絡帳」を用いて、報告や意見収集を行なっている。ホームだよりは2ヶ月に1回程度作成送付している。その他に法人のお便りを年に1回送付している。健康管理や金銭の報告も適切に行なっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議で家族の意見を聞いている。ホーム独自の「ご家族様連絡帳」を活用し常に意見を聞いている。重要事項説明書に外部の苦情受付機関について明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット間の職員の異動は極力しないようにしている。職員の離職の際は利用者のダメージが極力少なくなるよう職員間で情報の共有を徹底したり、利用者へ「お休み中」と伝えるなど工夫している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は入社時に法人の研修を受ける。ホーム内の学習委員が企画する研修に参加したり、区の管理者連絡協議会の主催する研修にほとんどの職員が参加するなど研修の参加機会が確保されている。しかし会議等での研修参加報告や情報の共有化についてはまだ十分とはいえない。	○	会議で参加した研修の報告会を実施したり、研修資料を職員に配布するなど情報の共有化の充実を期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者連絡協議会を通じて管理者レベルでは他のグループホームとの交流ができていますが、職員レベルでは主催研修参加にとどまり、勉強会や相互訪問等の活動までは至っていない。	○	今後、職員レベルでの情報交換や交流が可能となるよう、他のホームと話し合いをしながら取り組みを進められるよう期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人が見学に来て納得したうえで入居している。本人が来られない場合は職員が本人を訪問し、馴染みの関係を築くようにしている。希望に応じて体験入居も実施している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの尊厳を尊重し、日常の対等な立場を心がけている。調理などそれぞれの利用者が得意なことを教えてもらうような接し方を行なっている。職員が元気のないときに利用者が心配してくれるなど支えあう関係ができていく。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に利用者の情報シートを作成し、その後も日々の介護を通し本人の情報を充実させている。家族の訪問が少ない入居者の情報が十分でないケースもある。また徐々にセンター方式の情報充実を進めている段階である。	○	情報が少ない入居者の情報収集や、センター方式対象者を増やすことにより、本人の情報・意向の把握がさらに充実できるよう期待する。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の思い、職員等の意見を踏まえた介護計画を作成している。会議で職員が意見交換して計画の評価を実施し、チェック表を作成して次の計画作成に生かしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直しが行なわれ、利用者の状況に応じた都度の見直しも実施されている。計画見直しのための会議が毎月開催されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近所に同一法人が運営する福祉施設があり、行事を合同で開催したり、車両支援を受けたり、入浴施設を利用させてもらうなどグループの機能を生かしている。理美容や通院、外出についても利用者の要望に応じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の協力医療機関による往診を受けているほか、利用者個別のかかりつけ医への通院支援も行なっている。受診結果を必要な都度家族に報告している。また同一グループ施設の週に1度の歯科往診を利用できる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については、常に医療行為が必要な場合以外はホームでできる限り支援する方針としており、利用開始時より職員、家族と方針を共有している。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人ファイルの記入はスタッフスペースで行い記録の保管も安全な場所で管理している。利用者の誇りやプライバシーを尊重し、言葉かけや対応に注意を払っているが、申し送り時などに、やや声が大きくなり他の利用者に話が聞こえてしまうことがある。	○	個々の場面場面において、利用者のプライバシーが尊重できるよう職員がさらに意識を高めて取り組まれるよう期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの都合を優先することなく利用者の体調や希望、ペースに合わせた生活支援を行なっている。ホームで行なう軽体操やレクリエーションの参加も、その時の体調に合わせて自由参加としている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が利用者と一緒に昔の話をするなど会話しながら楽しく食事をしている。食事の準備、下膳、食器拭きなどで利用者の協力を得ている。盛り付けの工夫や味付け、食べやすさにも配慮を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後から入浴ができ、1人週3～4回程度の入浴を行っている。午前中に入浴希望にも対応している。近所の同一グループの入浴施設を利用することもできる。入浴をしたがらない場合も上手に声掛けし促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や畑仕事など個々の能力が発揮できる場面を提供している。訪問時も利用者と職員で「かるた」を楽しんでいた。各ユニットとも楽しみや趣味の品を豊富にそろえている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出行事を企画し実施している。散歩や買い物も行なっているが、職員数の関係上個々の外出対応には限界があり、特に冬場は散歩などの日常的な外出機会が少なくなっている。	○	冬場の外出機会の確保や個々の希望に応じた外出支援の体制づくりを検討する方針としており、取り組みに期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットの入り口には鍵はかけられていない。防犯上および交通安全上、玄関は施錠しているが、内側からは開けることができ、利用者が開け方を知っており外出できる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した避難訓練も実施している。近所の同一法人施設が緊急時に全面協力する体制となっている。職員の救急救命訓練の受講も実施されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材提供業者の栄養士が食事の献立を作成しておりカロリーや栄養バランス、塩分などを把握している。介護記録に食事や水分の摂取量を記録している。利用者の状態に応じた調理形態での提供に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間が広く清潔に保たれ、明るさ、温度、湿度も配慮している。窓が大きく居間には畳敷きで小上がりの空間もあり開放的でゆったりとした雰囲気となっている。壁にはスケッチ画や装飾が施され、居心地のよい空間をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には各利用者の自由な馴染みの家具や生活用品が持ち込まれ安心して過ごせる場所となっている。部屋の壁も利用者が様々なものを貼り自由に使用している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。